



地球高齢化時代の到来

——人口動態変化が政治・経済・社会・ビジネス・国際関係に与える影響と課題——

中嶋 圭介

神戸市外国語大学 法経商コース・准教授

米国戦略国際問題研究所(CSIS) 地球高齢化研究部・非常勤研究員

神戸外大オープンセミナー

2013年11月14日

CSIS

CENTER FOR STRATEGIC &
INTERNATIONAL STUDIES

公立大学法人
神戸市外国語大学

本日のお題

1. はじめに … 「地球高齢化」時代の到来
2. 高齢化の影響の派生経路 … 先進諸国の6つの課題

— 参考資料 —

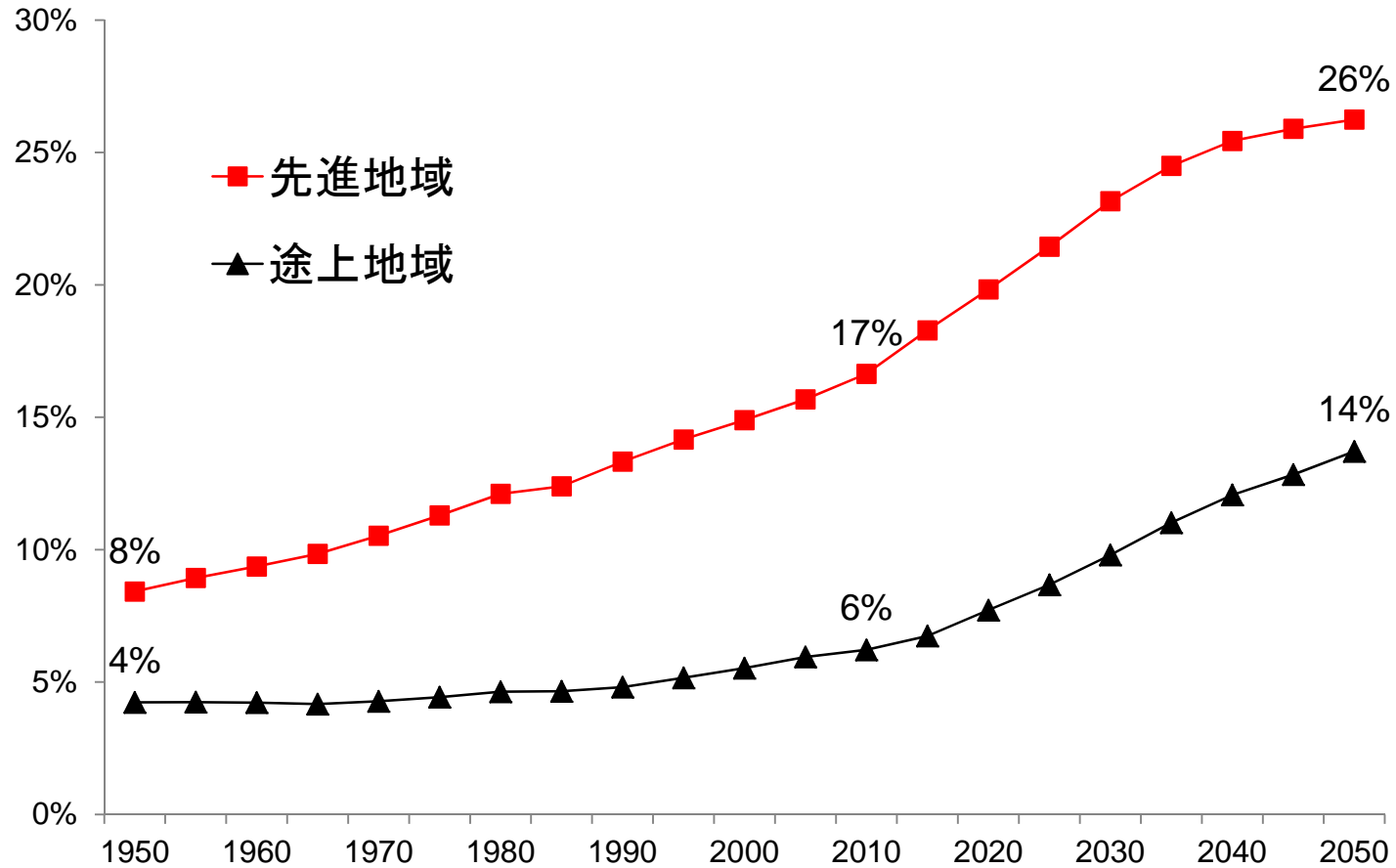
3. アメリカの人口動態の特殊性 … 移民要因と底堅い出生率
4. 巨大高齢国家・中国 … 「一人っ子政策」と「早期老化」



1. 「地球高齢化」時代の到来

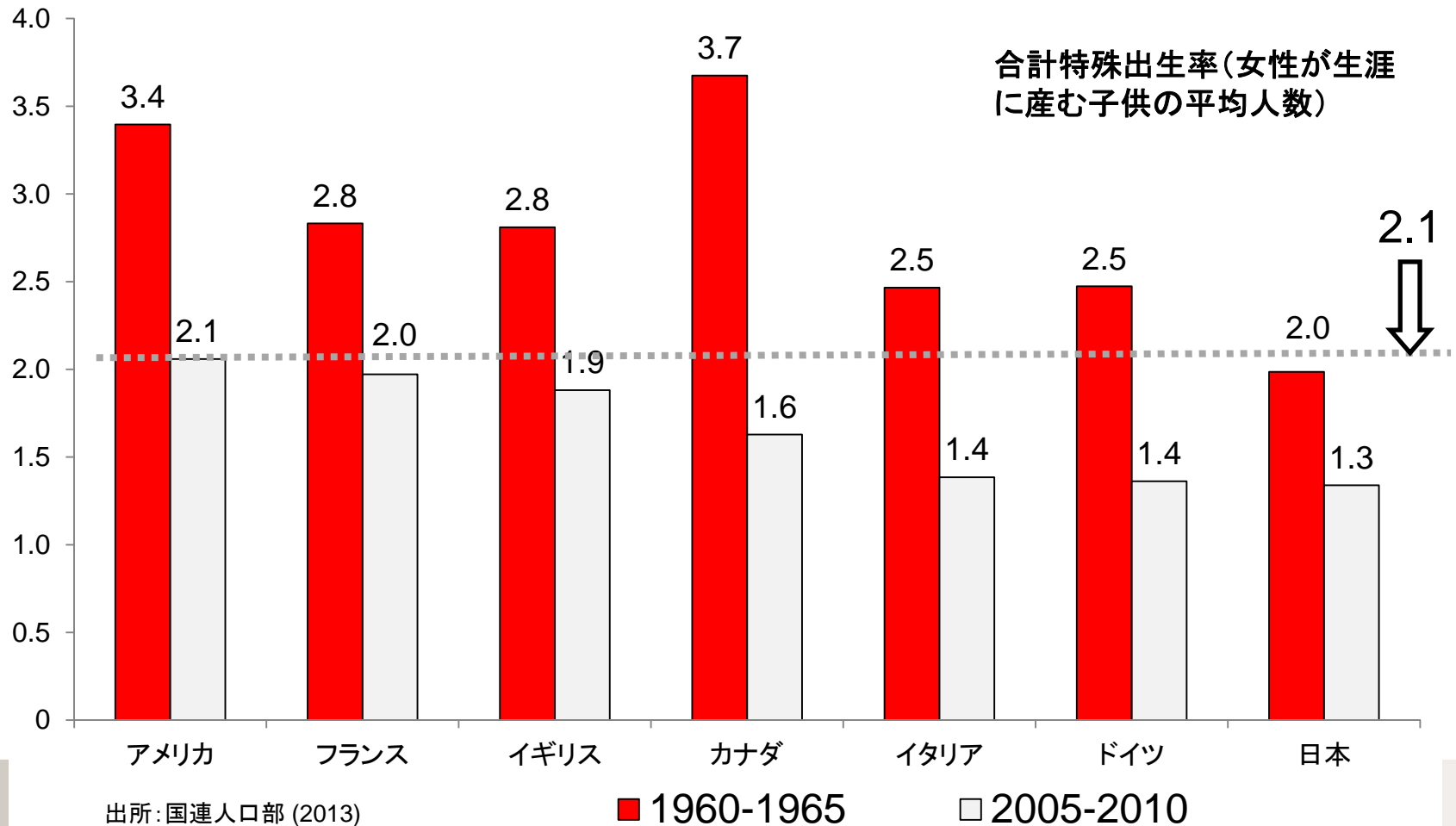


高齢者率(65歳以上の高齢者人口の割合)の推移(1950-2050年)

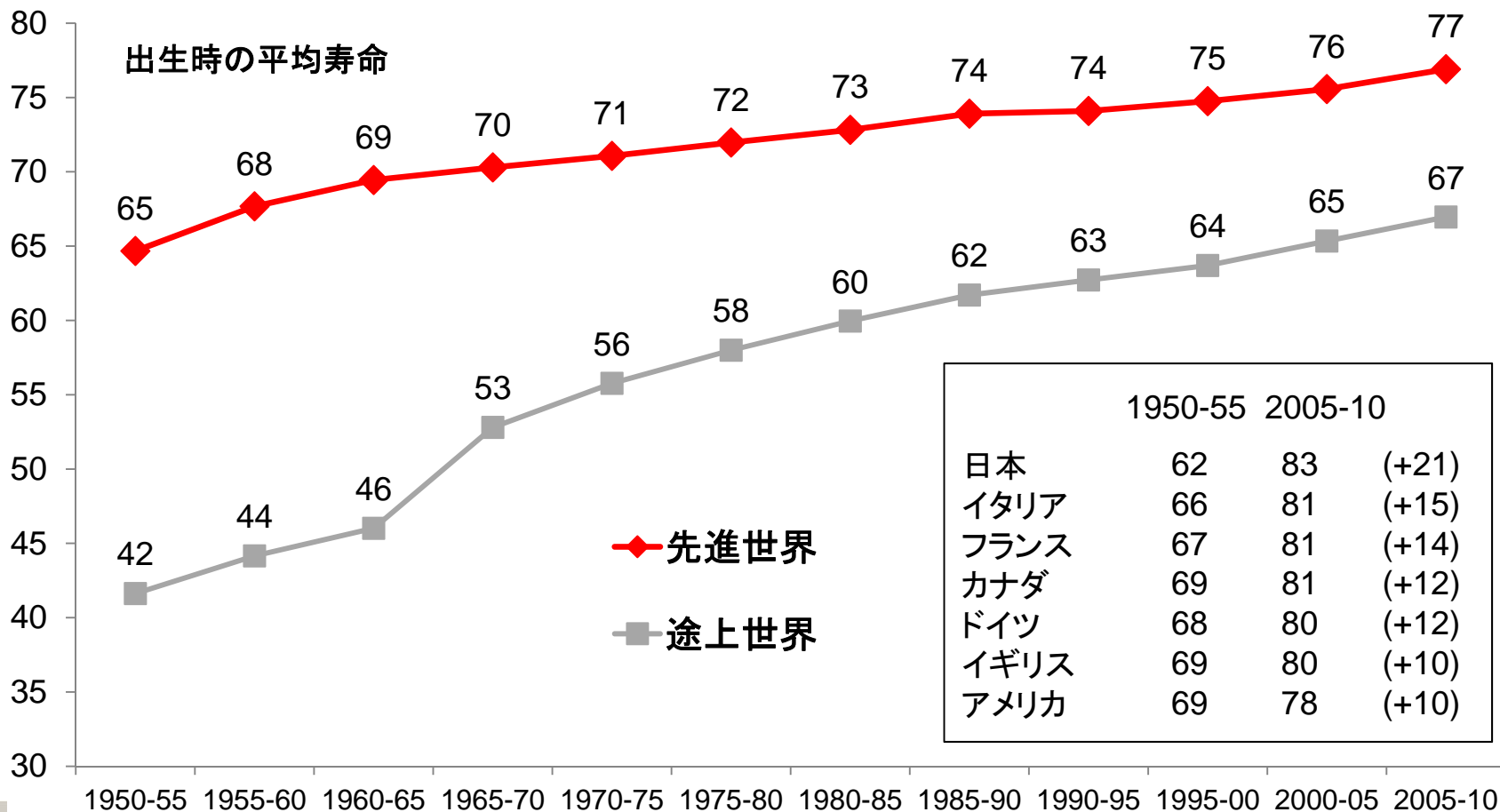


出所: 国連人口部 (2011)

高齢化の二つの要因：出生率の低下



高齢化の二つの要因：急速に伸びた平均寿命

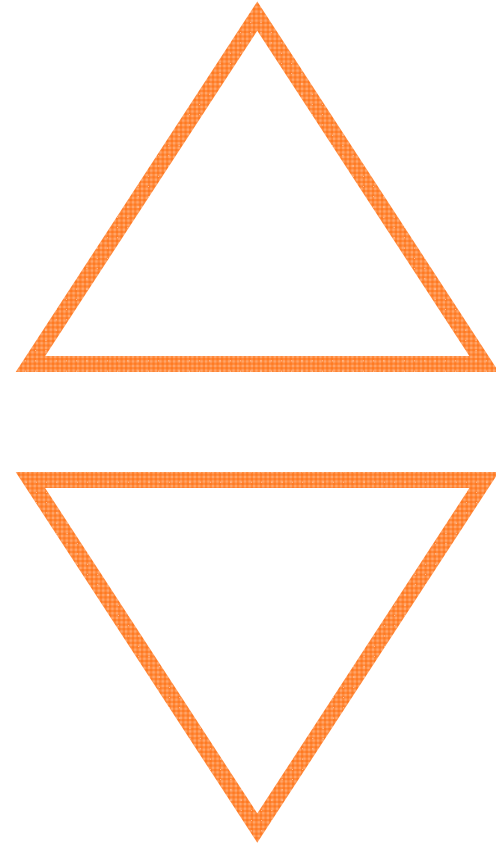


出所：国連人口部 (2013)

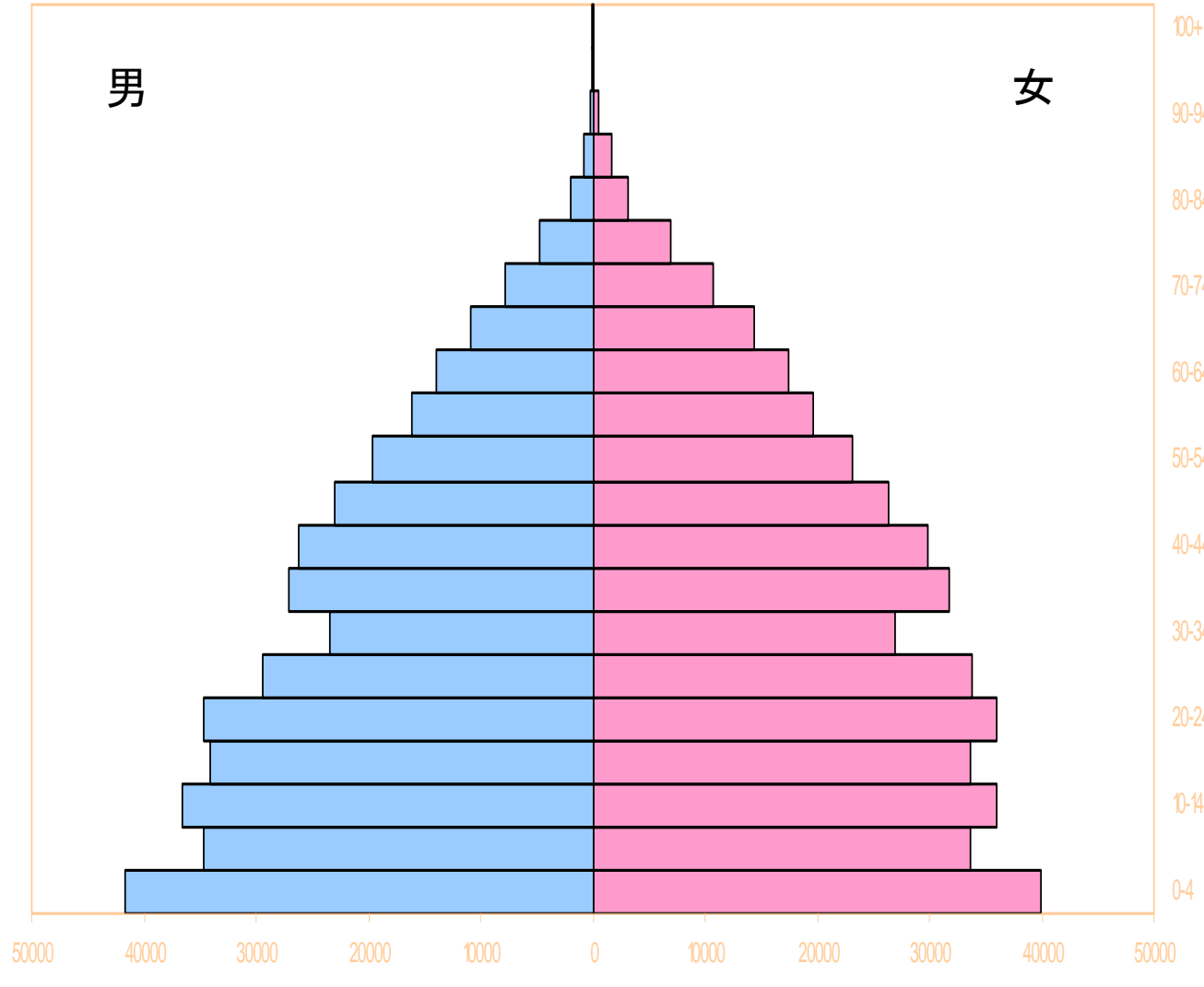
歴史的変化が迫る——人口ピラミッドの「反転」

歴史的な人口年齢構造は、高齢者数より若者数が多い「ピラミッド型」。

将来は、高齢者数が若者数を上回る「逆ピラミッド型」に。



先進地域(国連人口部・一定出生率シナリオ)

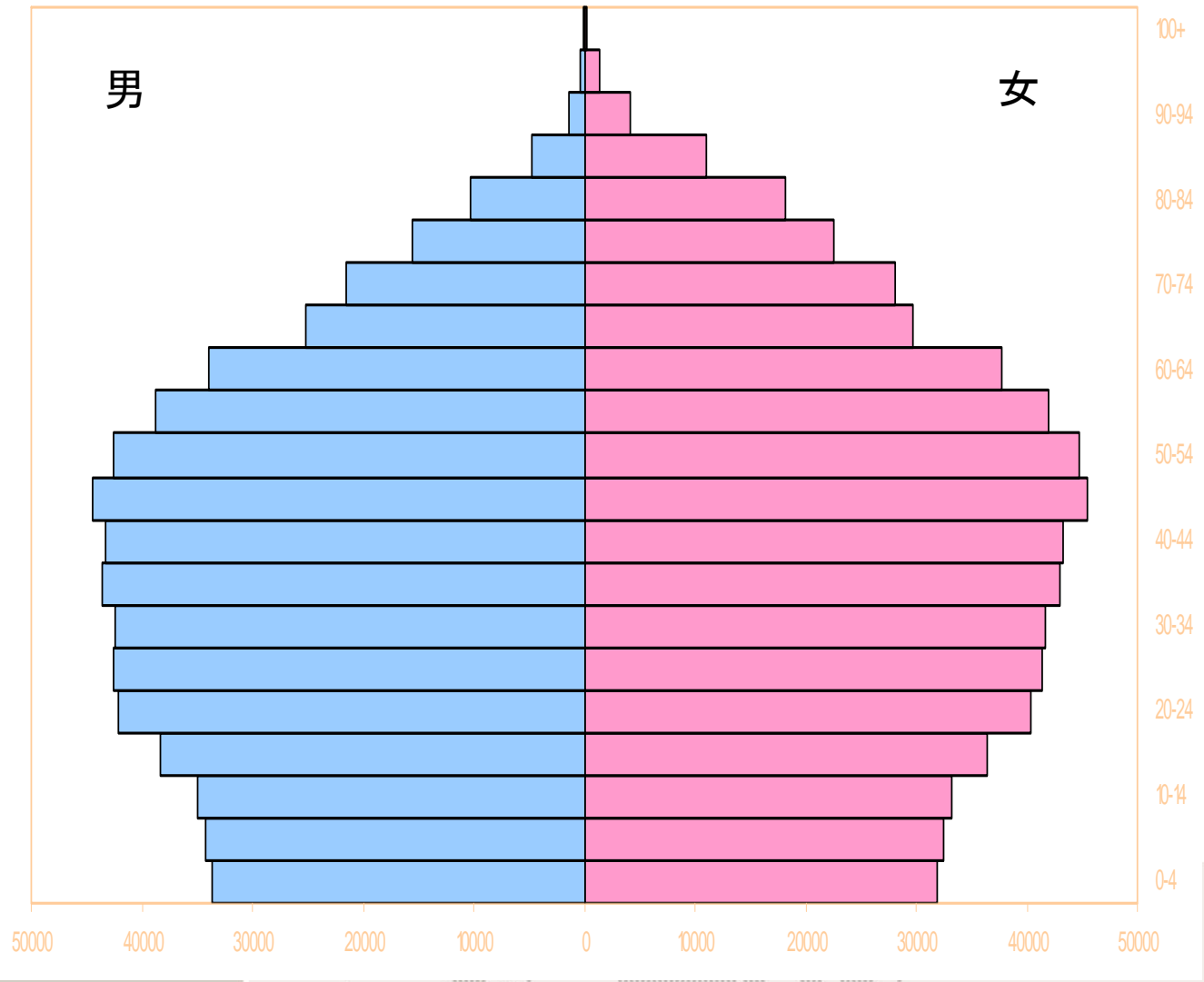


1950年
年齢中央値
28.5歳



単位:1000人

先進地域(国連人口部・一定出生率シナリオ)

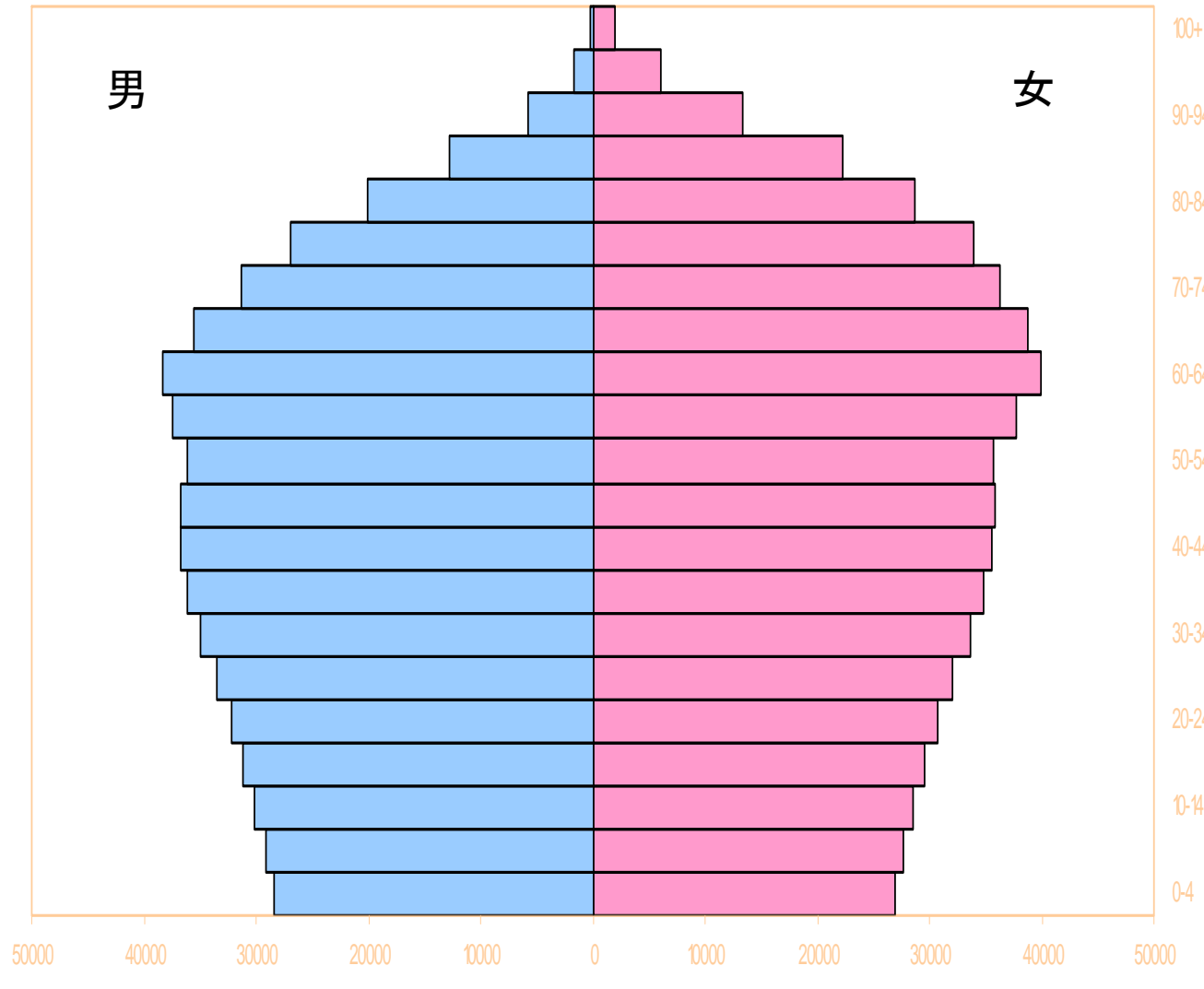


2010年
年齢中央値
39.9歳



単位:1000人

先進地域(国連人口部・一定出生率シナリオ)

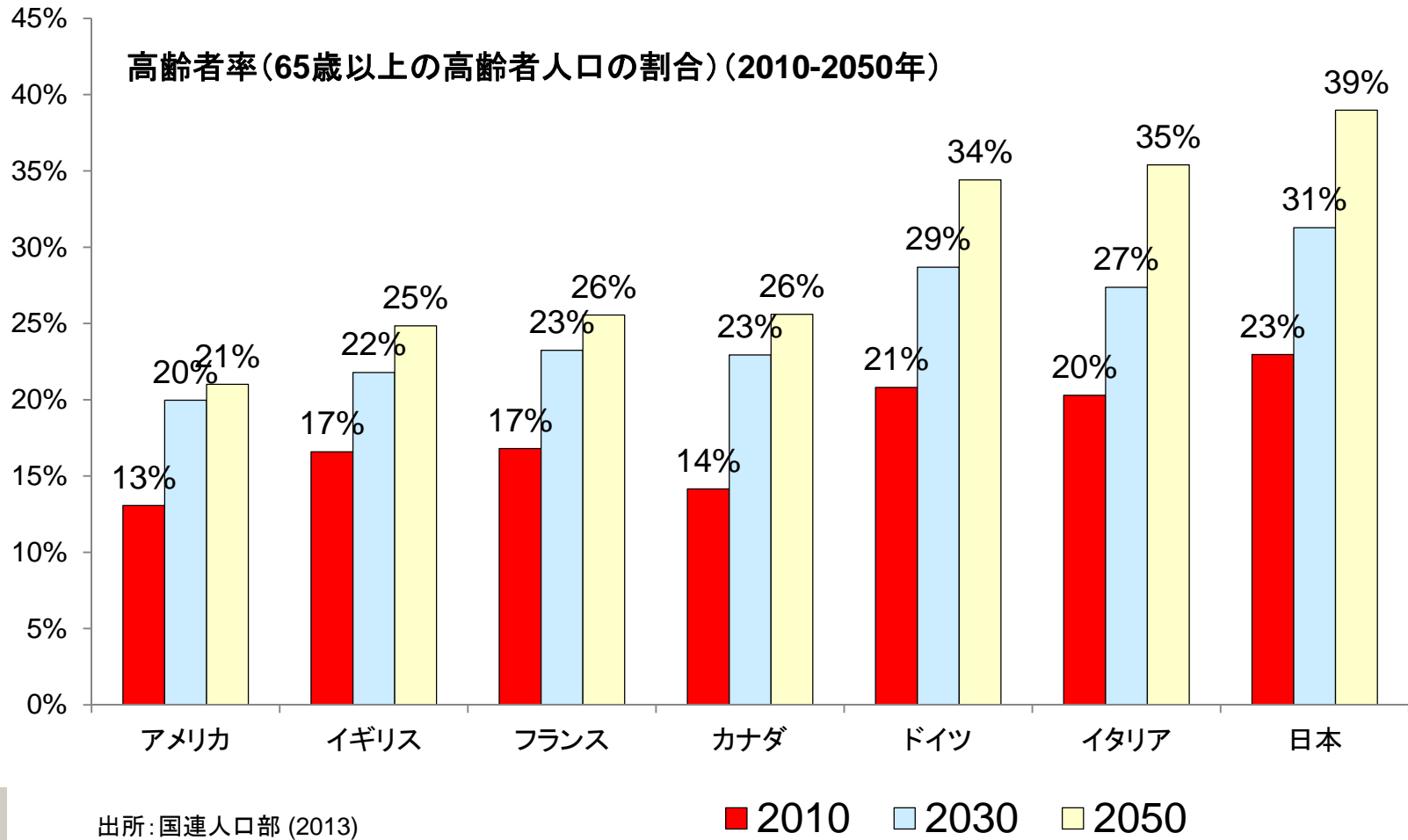


2050年
年齢中央値
45.6歳

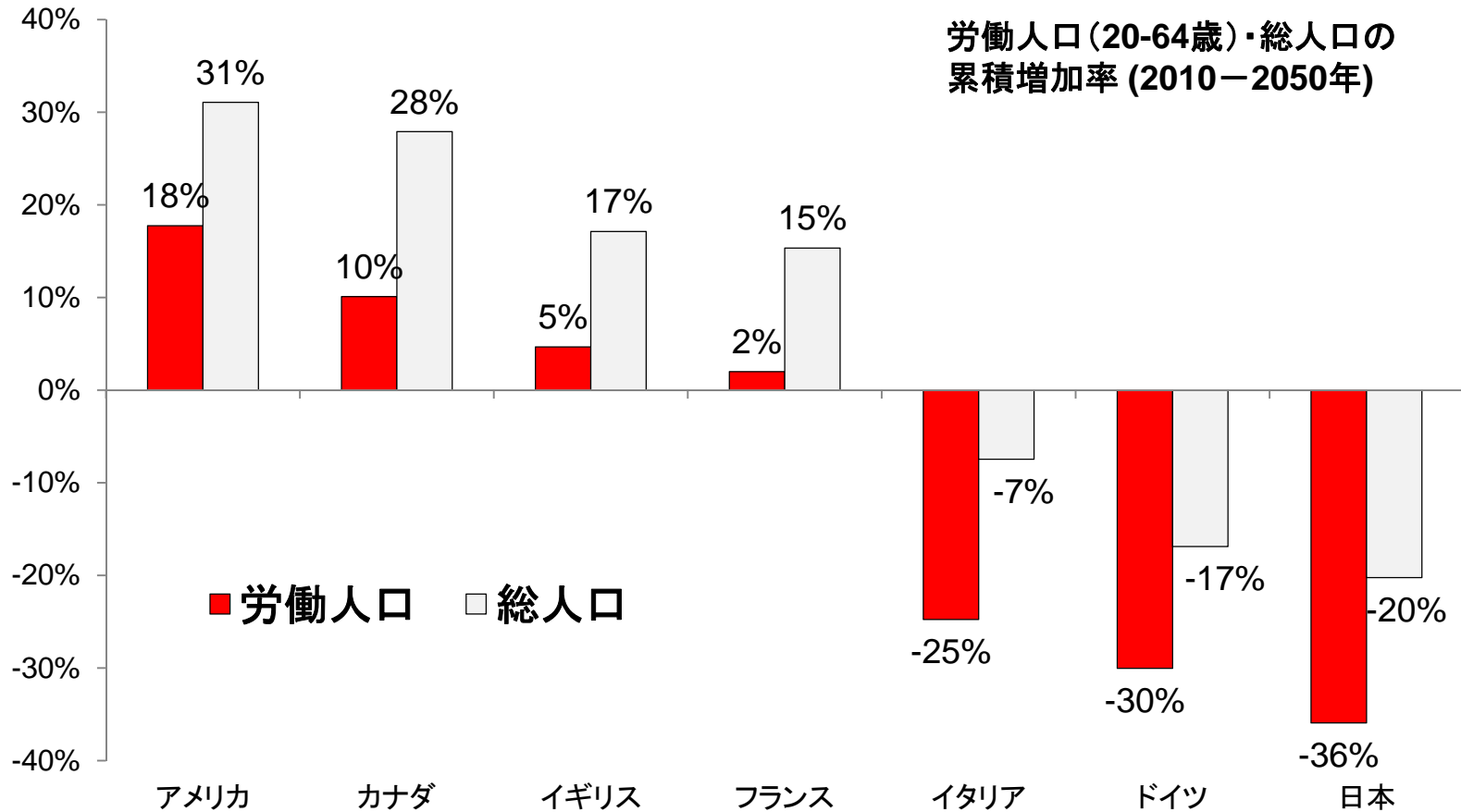


単位:1000人

長寿国日本と他の先進国の広がる年齢格差



未曾有の労働力・総人口減少時代



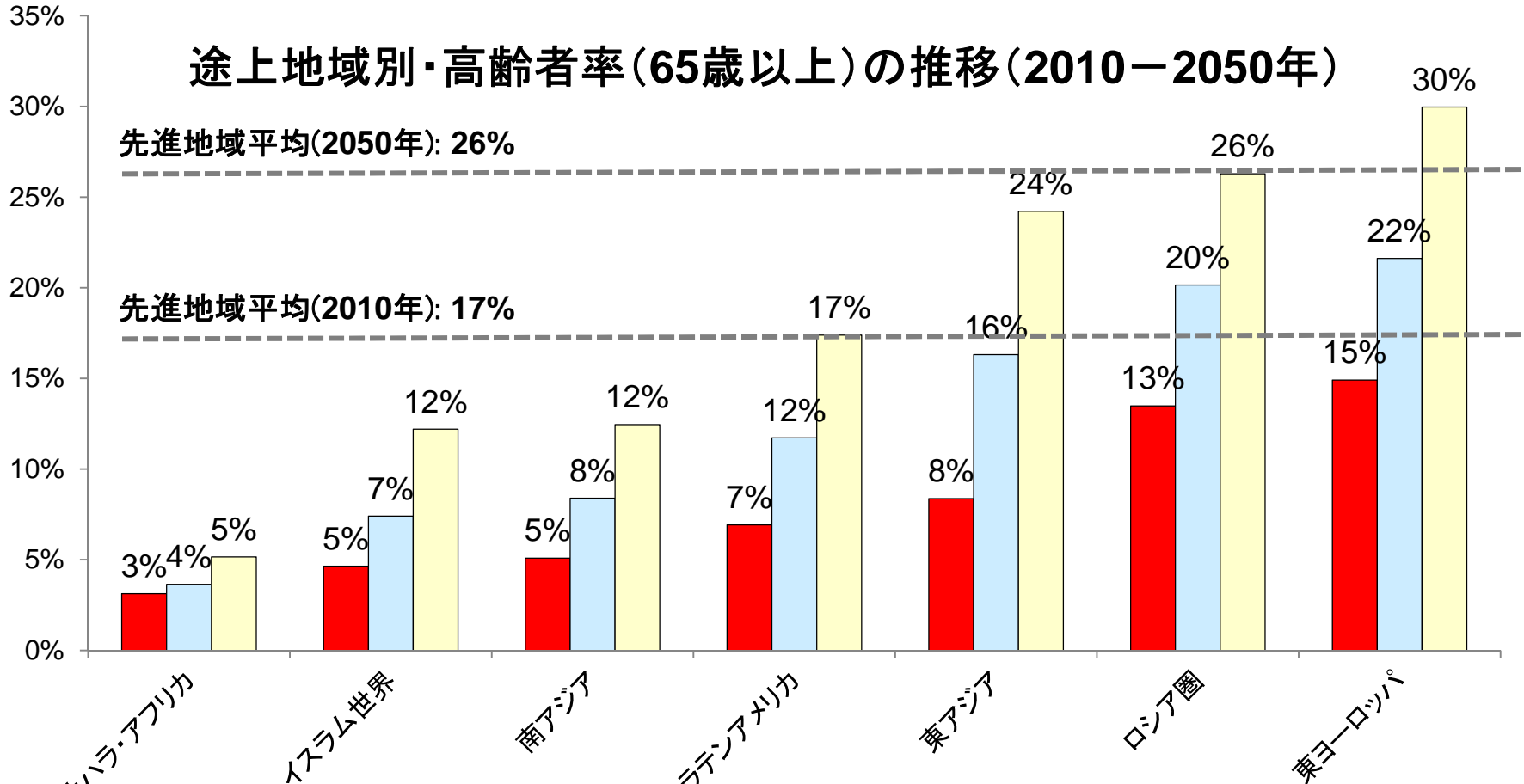
出所: 国連人口部 (2013)

途上地域の合計特殊出生率と平均寿命の推移

	合計特殊出生率(人)				平均寿命(歳)			
	1950-55	1970-75	1990-95	2005-10	1950-55	1970-75	1990-95	2005-10
東ヨーロッパ	3.1	2.4	1.7	1.4	62.3	70.0	71.3	74.9
ロシア圏	2.9	2.1	1.6	1.4	64.7	69.3	67.2	67.3
東アジア	6.0	4.7	2.0	1.7	41.3	63.2	69.0	73.2
ラテン・アメリカ	5.9	5.1	3.1	2.3	52.0	61.3	69.1	73.5
南アジア	6.0	5.4	3.8	2.7	39.3	51.4	60.3	64.9
イスラム世界	6.4	6.2	4.2	2.9	41.9	52.2	62.4	68.2
サブサハラ・アフリカ	6.6	6.7	6.1	5.2	37.9	45.5	49.9	51.7

出所：国連人口部(2009)を基にCSIS作成。地域の定義は、CSIS (2008) *The Graying of the Great Powers*, pp. 205-206を参照。

途上地域別・高齢者率(65歳以上)の推移(2010-2050年)



出所: 国連人口部(2009)を基にCSIS作成。地域の定義は、CSIS (2008) *The Graying of the Great Powers*, pp. 205-206を参照。

■ 2010 ■ 2030 ■ 2050

2. 高齢化の影響の派生経路

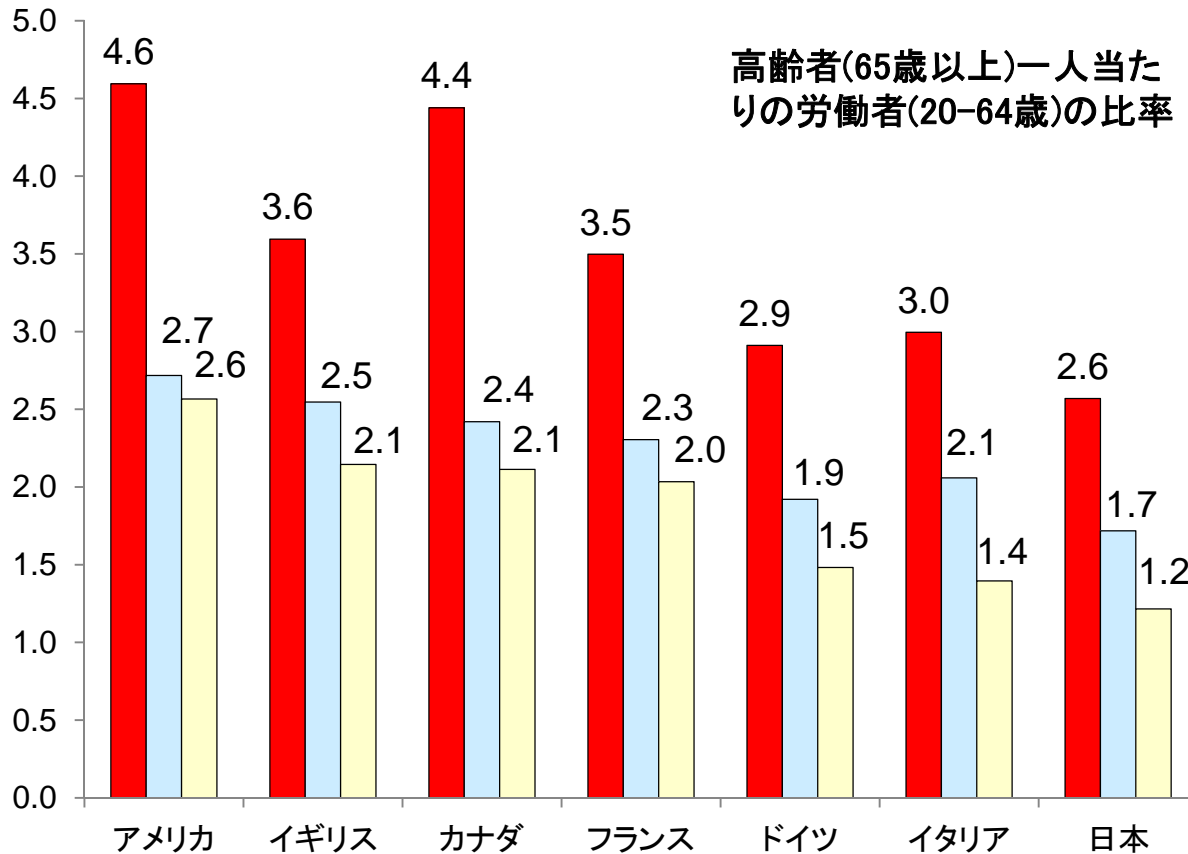


先進諸国の6つの課題

- 財政課題 … 公的年金・医療・介護負担の増加
- 経済成長課題 … 労働者の高齢化・減少による成長鈍化
- 金融課題 … 資産形成世代の縮小、資本枯渇、国際資本移動の逆流
- ビジネス課題 … 高齢化・多様化する消費者、事業ポートフォリオの見直し、海外展開
- 社会・政治課題 … 社会のムードの変化、選挙民の高齢化
- 地政学課題 … 人口・経済・外交・軍事のパワーシフト



1-1. 財政課題：高齢者一人当たりの労働者の数は激減



高齢者(65歳以上)一人当たりの労働者(20-64歳)の比率

- 退職者／労働者比率の低下
- 賦課方式の退職給付費の増加
- 現行制度を維持・・・増税、給付削減、債務増加の選択
- 財務再建オプションを巡って政治的停滞

出所：国連人口部 (2013)

■ 2010 □ 2030 □ 2050

1-2. 財政課題：予算を圧迫する公的年金・医療支出

60歳以上高齢者の公的給付支出の推計(GDP比), 2007-2040年

	公的年金			公的医療			年金・医療合計		
	2007	2025	2040	2007	2025	2040	2007	2025	2040
カナダ	3.9	5.5	5.6	3.6	5.5	7.7	7.5	10.9	13.3
イギリス	5.8	6.9	7.9	4.0	5.7	7.5	9.8	12.6	15.4
アメリカ	4.1	6.0	6.1	4.2	7.2	9.3	8.3	13.2	15.5
日本	9.1	8.8	10.1	4.0	5.6	7.0	13.2	14.4	17.2
ドイツ	10.0	10.7	11.9	4.1	5.7	7.3	14.1	16.4	19.2
イタリア	12.3	13.3	15.1	3.4	4.9	6.7	15.7	18.3	21.7
フランス	11.2	12.2	12.8	4.5	7.0	9.2	15.6	19.3	22.0
先進国平均*	7.4	8.6	10.0	3.8	5.7	7.5	11.2	14.3	17.5

高齢化による公的高齢者給付増加のごく一部でさえも増税だけで賄える国はほとんど無い。

ほとんどの国が高齢者給付削減に踏み切らざるを得ないが、必要な削減規模は大きく、高齢化する選挙民に阻まれる。

結果的に、公的高齢者給付の増加は、他の分野の予算削減及び公的債務の拡大につながる可能性が高い。

* CSISの研究に含まれる12の先進国の単純平均値。

出所：The Global Aging Preparedness Index (CSIS, 2010)

2. 経済課題：労働力減少による成長鈍化

労働力人口 (20-64歳)の年平均増加率, 10年代別

	1980s	1990s	2000s	2010s	2020s	2030s	2040s
アメリカ	1.3	1.2	1.1	0.4	0.2	0.5	0.4
カナダ	1.7	1.1	1.2	0.4	-0.2	0.2	0.2
フランス	1.0	0.4	0.7	-0.1	0.0	0.0	0.1
イギリス	0.6	0.4	0.7	0.3	0.1	0.0	0.0
ドイツ	1.1	0.3	-0.2	-0.5	-1.2	-1.1	-0.8
イタリア	0.9	0.2	0.4	-0.2	-0.6	-1.2	-1.0
日本	0.7	0.4	-0.4	-1.0	-0.7	-1.4	-1.4

出所: 国連人口部 (2011)

労働力減少が先進経済におけるGDP成長を鈍化させる。

高齢化の進行が速い日本や欧州諸国では、将来「長期停滞」に直面。

生産性や生活水準の向上も、貯蓄や投資の低下や労働者の高齢化進行によって鈍化すると考えられる。

3. 金融課題：貯蓄・資産購入世代の縮小

年齢グループ別・成人人口(20歳以上)に占める割合

		2005	2010	2020	2030	2040
アメリカ	20-34歳	28%	28%	28%	26%	26%
	35-59歳	48%	47%	42%	41%	41%
	60歳以上	23%	25%	30%	33%	33%
EU15	20-34歳	25%	24%	22%	20%	19%
	35-59歳	46%	46%	44%	40%	38%
	60歳以上	29%	31%	34%	40%	43%
日本	20-34歳	25%	22%	18%	18%	16%
	35-59歳	42%	41%	41%	38%	34%
	60歳以上	33%	37%	41%	45%	50%

家計貯蓄率の低下と資本市場における“Great Depreciation” “Asset Meltdown” の危険性。

高齢者給付の増加を賄うために政府累積債務が持続不可能なレベルに達する危険性。

国際資本移動において債権国と債務国の逆転現象の可能性。

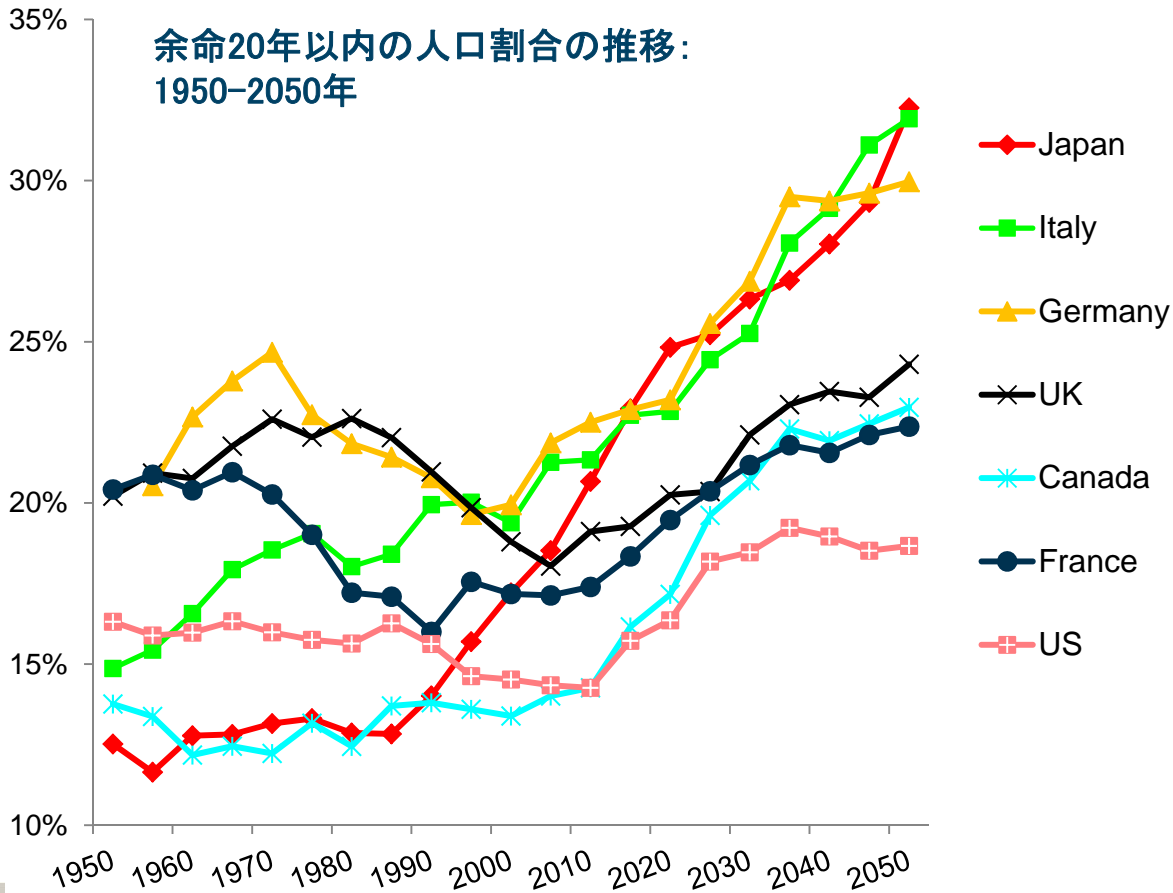
出所: 国連人口部 (2005)

4. ビジネス課題

- 高齢化・多様化する消費者 … シニア消費者を取り込むための商品・サービス開発、マーケティング
- 事業ポートフォリオの見直し … 高齢化の影響を考慮しつつ、各事業の拡大・縮小戦略の練り直し
- 海外展開 … 収益・利益拡大が見込めない先進国の成熟市場に加えて、新興国の人口動態、経済社会生活、政治・政策・制度(参入障壁)などを分析したうえで、どの市場に、どのようなタイミングで、どのような商品・サービスを携えて参入するのか。



5-1. 社会・政治課題：勢力を増す高齢者票



高齢社会は、断固たる行動を起こしたり、長期的な見返りや成果に対する投資に消極的になる可能性。

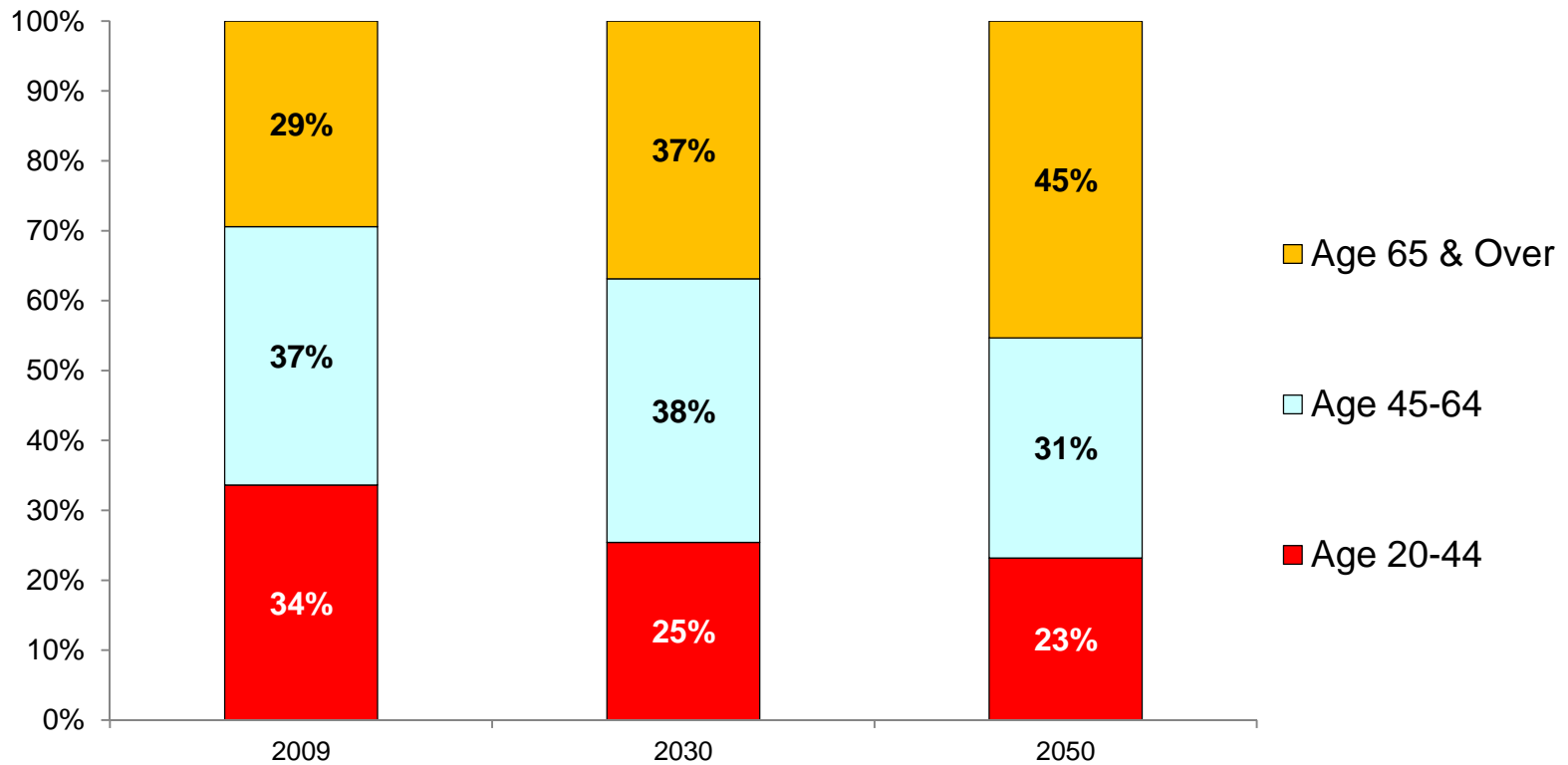
縮小する家族は、子供に社交性を身につけさせたり、高齢者扶養の能力(機能)が低下する可能性。
——希少な若者を戦地へ送ることにより消極的になる可能性。

選挙民の高齢化によって、高齢者優遇の政策が優先され、世代間闘争が顕著になる可能性。

出所: 国連人口部 (2007) と Human Mortality Database, University of California, Berkeley and Max Planck Institute for Demographic Research のデータに基づいて CSIS 試算

5-2. 社会・政治課題：勢力を増す高齢者票

年齢グループ別・投票総数に占めるシェアの実績値(2009年)と推計値(2030、2050年)*



* 2009年8月の衆議院議員総選挙における男女・年齢別投票率を推計期間も一定と仮定
Source: (財)明るい選挙推進協会、UN (2011) のデータを用いて中嶋作成

6-1. 地政学課題：人口大国の主役は「第一」から「第三」世界へ

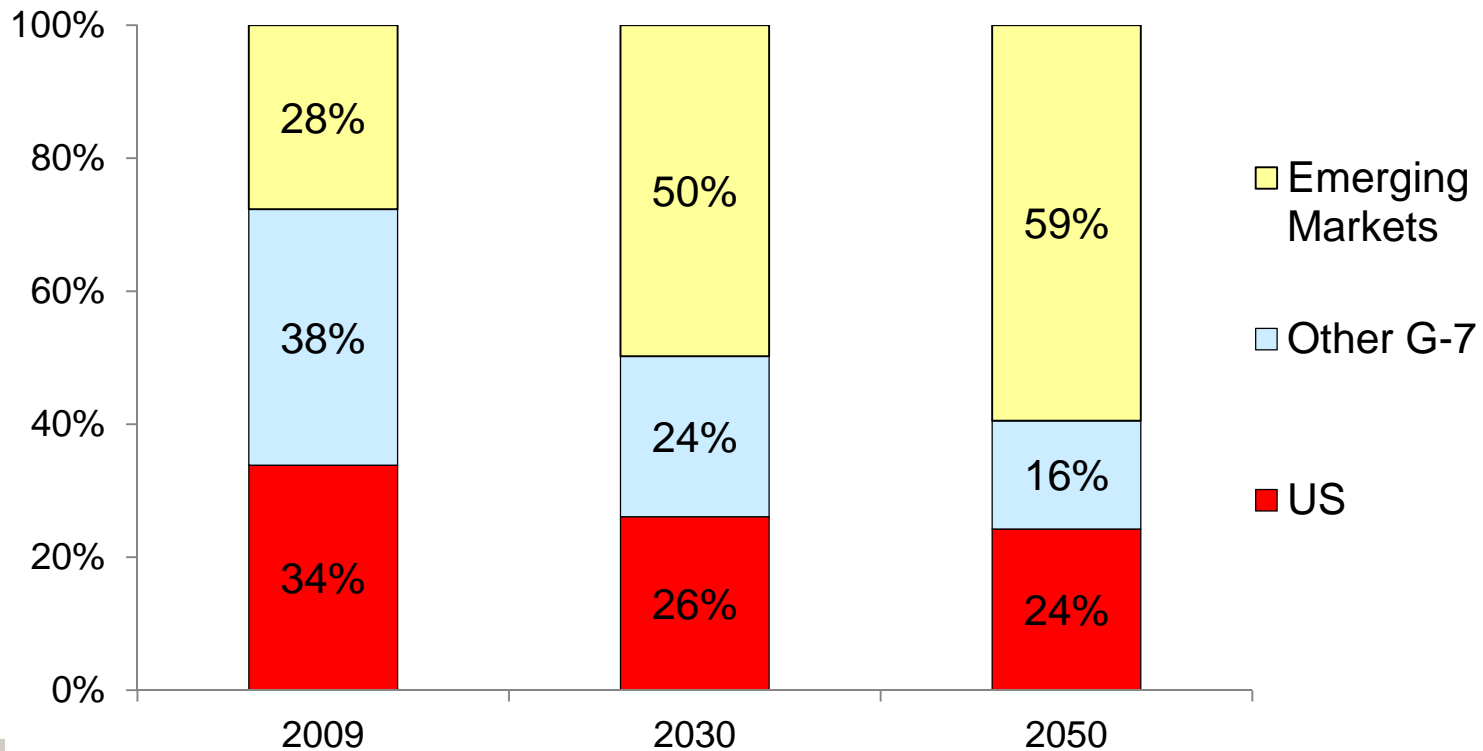
Ranking	1950	2010	2050
1	China	China	India
2	India	India	China
3	<i>US</i>	<i>US</i>	<i>US</i>
4	Russian Federation	Indonesia	Pakistan
5	<i>Japan</i>	Brazil	Nigeria
6	Indonesia	Pakistan	Indonesia
7	<i>Germany</i>	Bangladesh	Bangladesh
8	Brazil	Nigeria	Brazil
9	<i>UK</i>	Russian Federation	Ethiopia
10	<i>Italy</i>	<i>Japan</i>	Dem. Rep. Congo
11	Bangladesh	Mexico	Philippines
12	<i>France</i>	Philippines	Egypt
世界人口ランキング 上位12カ国		<i>Germany</i> (16) <i>France</i> (21) <i>UK</i> (22) <i>Italy</i> (23)	Russian Federation (14) <i>Japan</i> (17) <i>UK</i> (25) <i>Germany</i> (26) <i>France</i> (27) <i>Italy</i> (32)

Source: UN (2009)

Note: Rankings for developed countries that have fallen below 12 are in parentheses.

6-2. 地政学課題：先進国地域の世界GDP割合の低下

国地域別GDP (2005年米ドル)のG-20全体比の推計, 2009-2050年

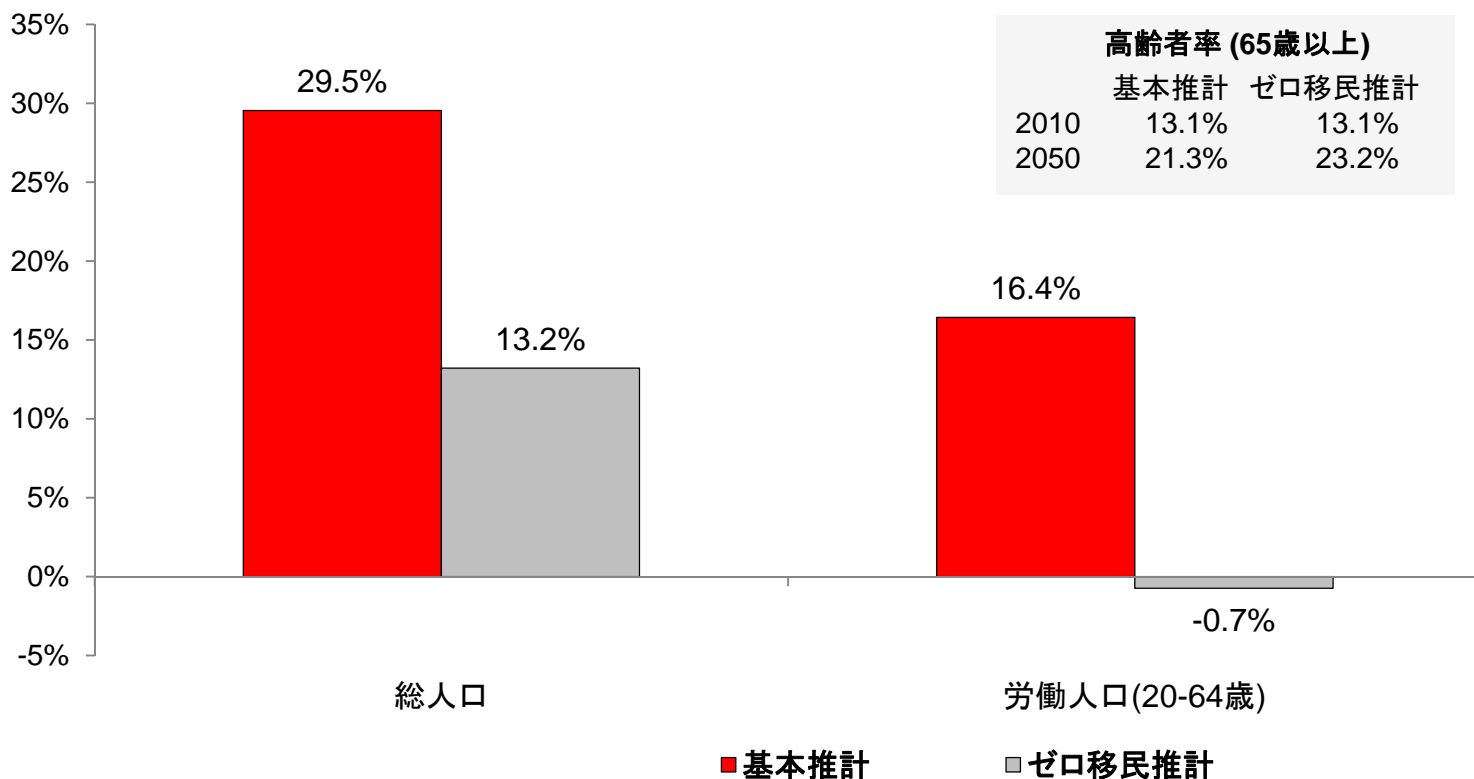


出所: Uri Dadush and Bennett Stancil (2010)

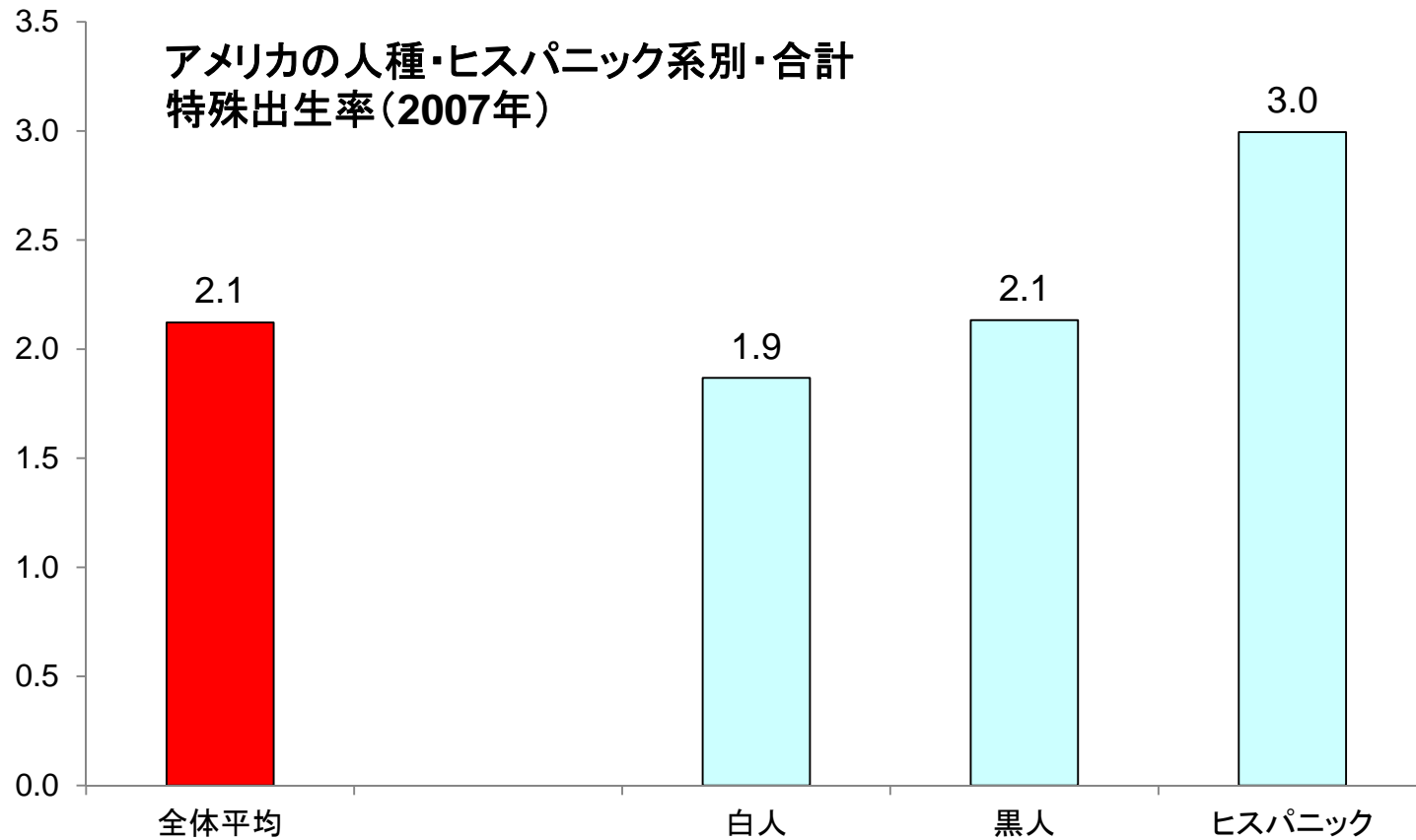
3. アメリカの人口動態の特殊性



アメリカの人口累積増加率 (2010～2050年) 基本推計とゼロ移民推計の比較



出所: UN Population Division (2011)

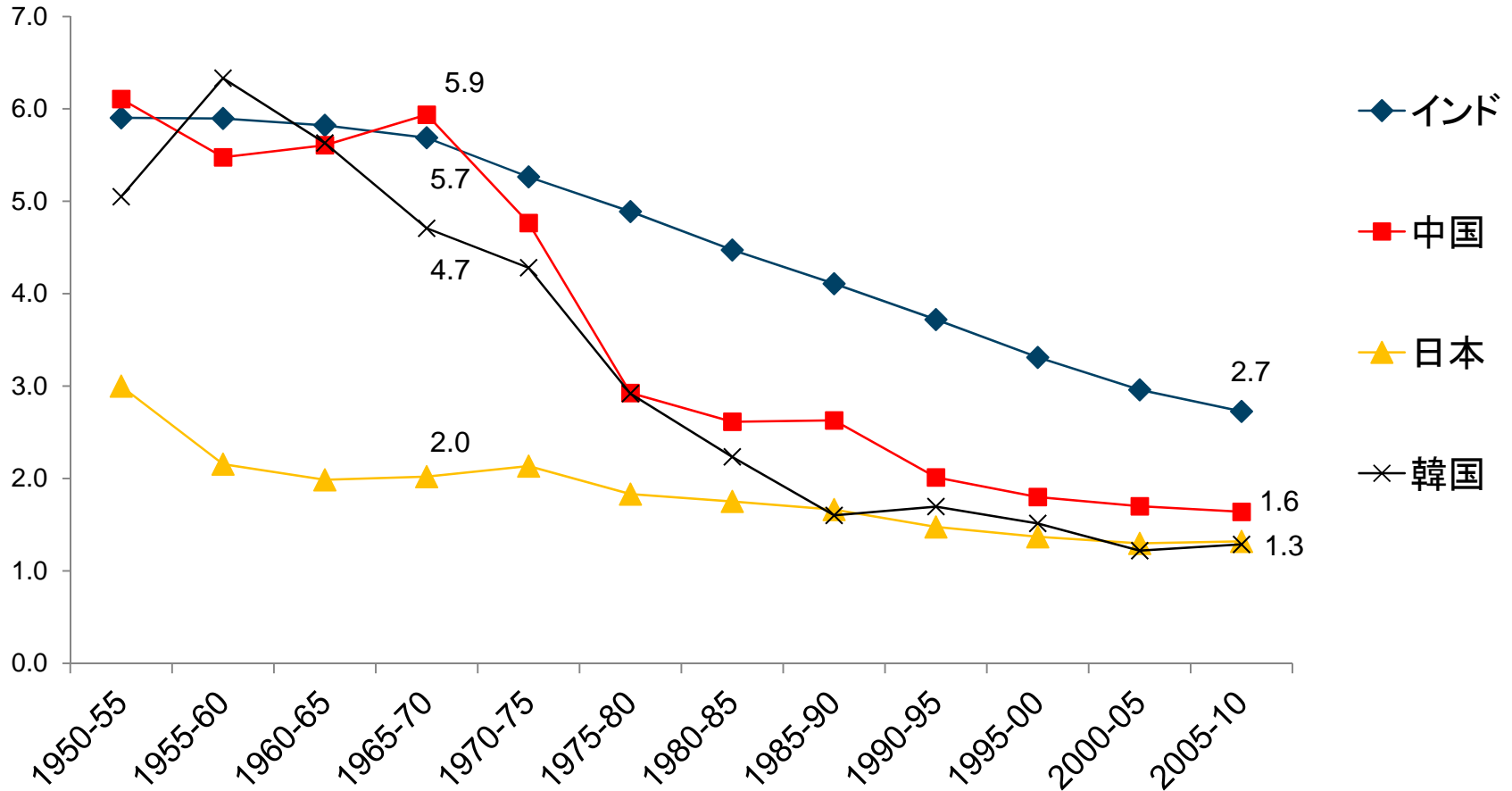


Source: National Center for Health Statistics (2010)

4. 巨大高齡国家・中国

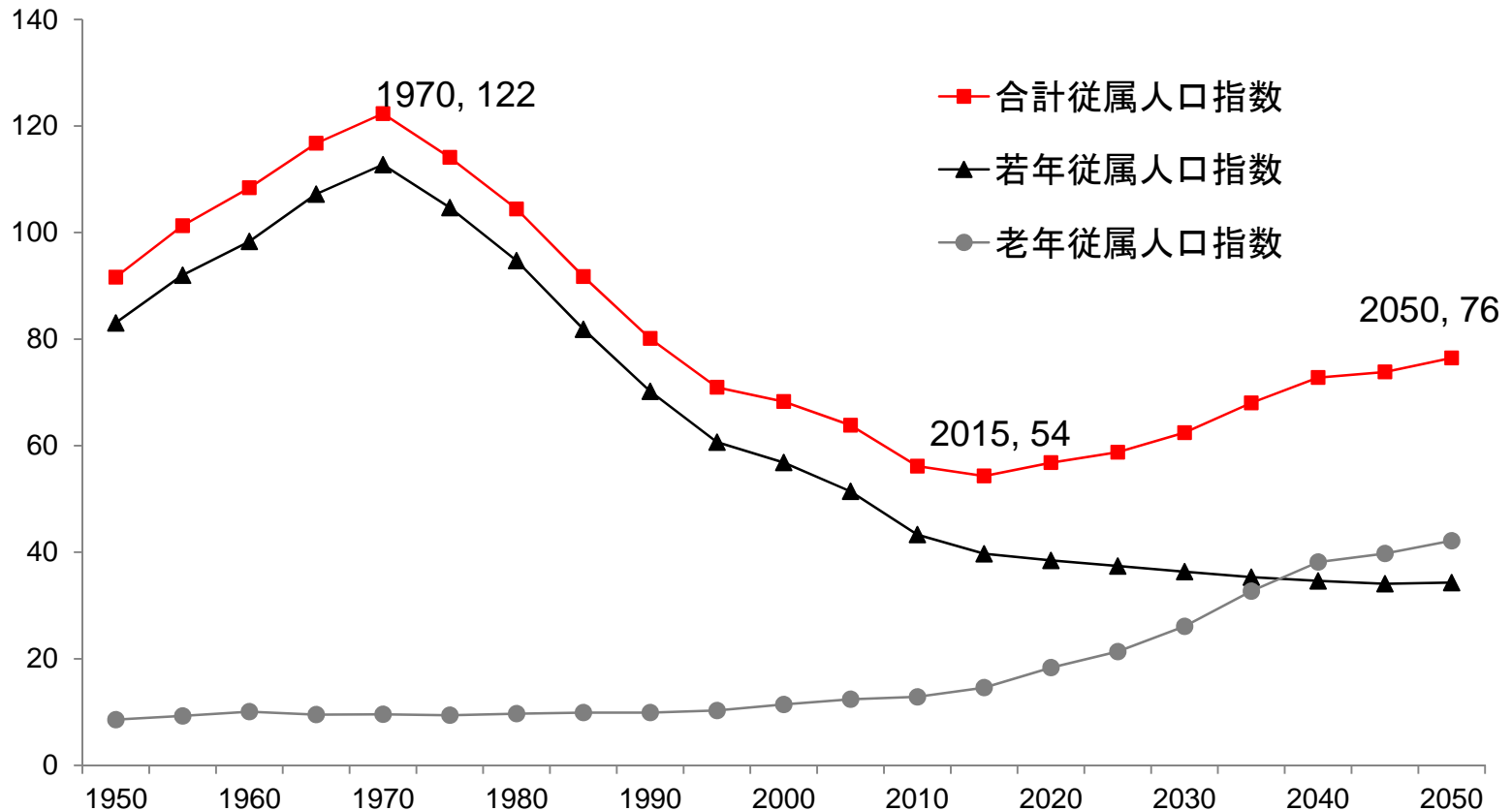


アジア主要国別・合計特殊出生率の推移(1950~2010年)



Source: UN (2011)

中国の従属人口指数の推移(1950~2050年)

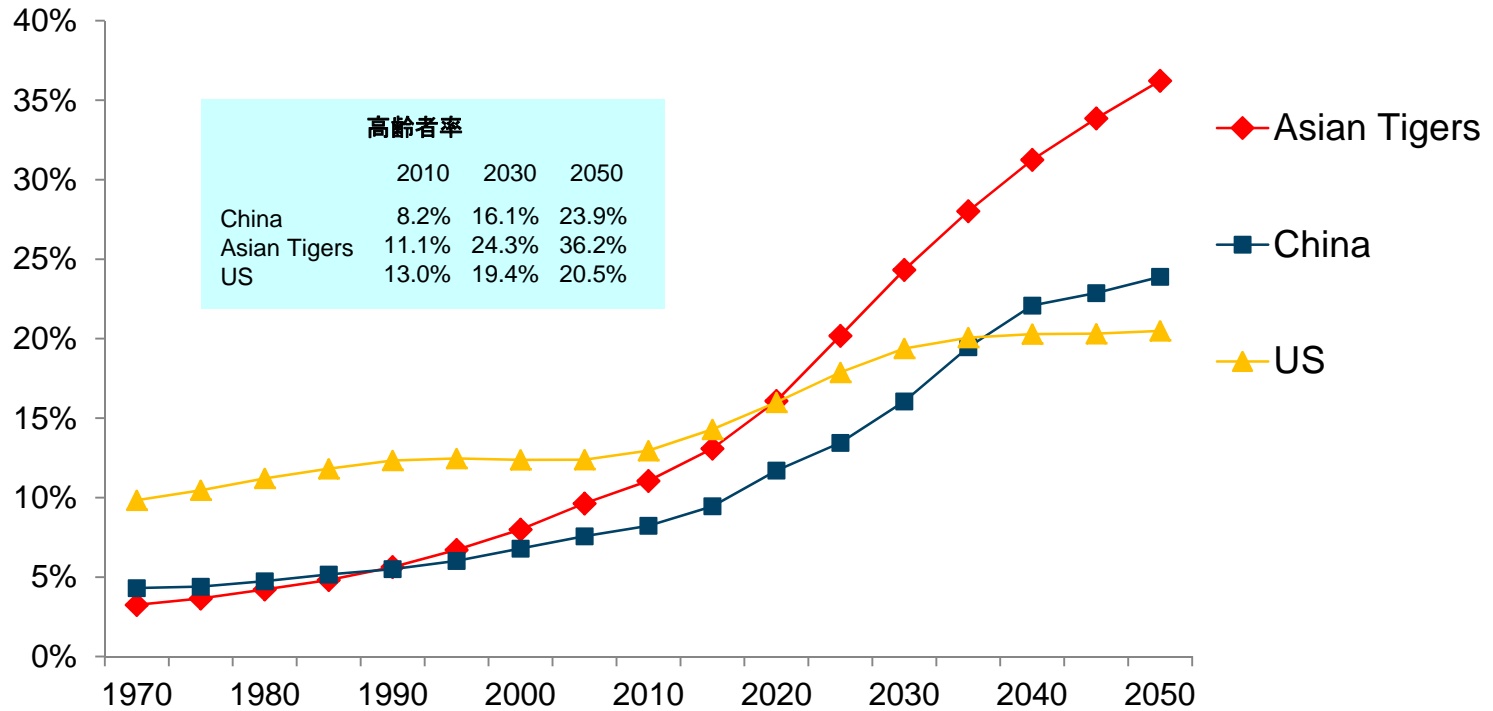


合計従属人口指数 = (高齢者人口 + 若年人口) ÷ (労働人口) × 100

若年従属人口指数 = (若年人口) ÷ (労働人口) × 100

高齢者従属人口指数 = (高齢者人口) ÷ (労働人口) × 100

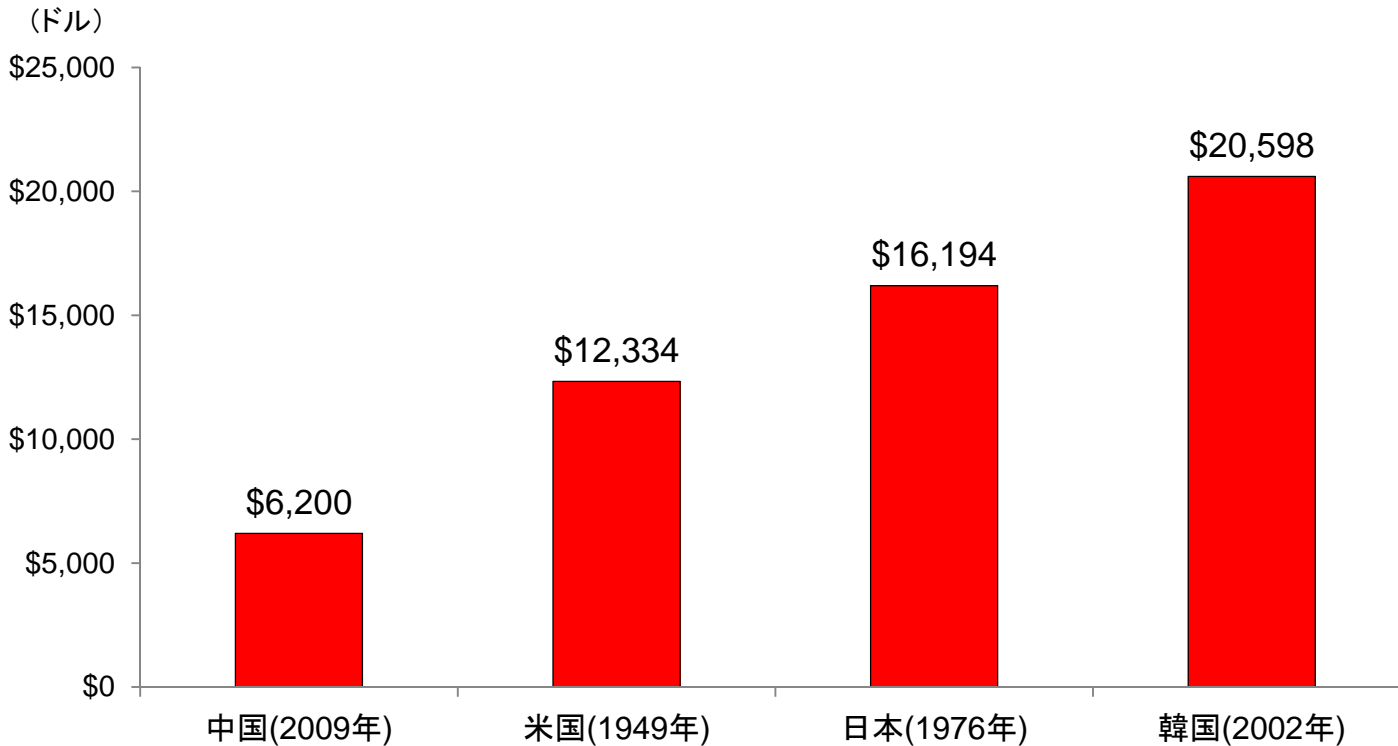
高齢者率の推移(1970~2050年)



Source: UN (2009); and Council for Economic Planning and Development, Taiwan (2010)



中国の2009年時点の高齢者率に等しかった年の他国の1人当たりGDP (2005年購買力平価ベース) との比較



Source: UN (2011), World Bank (2011), Angus Maddison (2010) のデータを基に中嶋作成

Thank You!

URL: www.knakashima.net

E-mail: info@knakashima.net

